

「共生地域づくりプロジェクト通信 第2号」を発刊します。

東北福祉大学の森ゼミが取り組む「楽しい農業」と「楽しい地域づくり」をテーマにしたプロジェクト活動の上半期までの取り組みをご紹介します。令和5年度から始まった本取組は、山元町の八手庭地区のおひさま村農園をフィールドに設定し、2つのキーワードをもとに人・資源の新たな結びつきと可能性について探究してきました。令和6年度のプロジェクトでは、引き続き関係人口である大学生が地域の人と資源を媒介し、地域に新たな化学反応を起こす実践づくりを発信していきます。

楽しい農業づくりを通した関係人口の創出と地域再生への挑戦

1 楽しい農業をめざして

私たち森ゼミは、宮城県内の中山間地域にある山元町八手庭地区で、農作業やイベントを通じて関係人口を増やし、地域活性化につなげるプロジェクトを行っています。このプロジェクトは、農作業の体験を通して地域の農家と交流し、大学生が実際に農業に触れることでその魅力を学ぶことが目的です。今年度もおひさま村農園さんの協力のもと、さつまいもの植え付け、雑草の除去、いちじくの堆肥まき、水やり、剪定など、さまざまな農業体験を行いました。活動を通して学生は農業の楽しさと奥深さを感じ、地域とつながる貴重な経験を積むことができました。

「2年生デビュー」

6月に行われた顔合わせでは、森ゼミに加入したばかりの2年生と、おひさま村農園の鈴木さんや三橋さん、地域で活躍されている方々が集まり、地元の盛り上げるための思いを共有し、交流を深めました。初めての作業体験では、木の伐採や肥料まき、水やりなどの基本的な作業を体験し、学生からは「筋肉痛になった!」や「虫が苦手だったけど気にならなくなった!」という驚きと成長を感じる声が聞かれました。普段の生活では触れる機会が少ない自然の中での作業を通して、農業の労力を実感し、農業に対する理解を深めるきっかけとなりました。

「雑草とのたたかい!」

さつまいもの苗植えや、畑に自生する「アカザ」という植物の刈り取り作業も体験しました。鎌を使ってアカザを刈る作業は、想像以上に硬く切るのが難しいものでしたが、学生たちは「農業の作業は思っていたよりも体力が必要だと実感した」と語り、地域の人々の支えがいかに重要かを学ぶ機会となりました。また、9月にはさつまいもの収穫作業にも参加しました。この作業では、掘る前に周りの草を刈り、収穫したさつまいもを選別していくという一連の流れを体験しました。休む暇もなく流れてくるさつまいもに、学生たちは「忙しいけれどやりがいがある」と話し、収穫の達成感と農業の楽しさを味わうことができました。

「成果を実感出来る楽しさ」

農業体験を通じて、学生たちは「目に見える成果を得られると楽しい!」「農業の楽しさを知ることができた!」といった実感を得ましたが、一方で農業の大変さも感じることもできました。農業は体力と忍耐力が求められるだけでなく、収穫の時期を見極めるなど多くの知識と経験が必要です。普段は農作業に縁がない学生にとって、この経験は貴重な学びの場となり、「地域の方々の温かいサポートがあったからこそ続けられた」との声も上がりました。こうした支えに感謝し、少しでも農業や地域に関わる人を増やす一助となれるよう、今後も活動を続けていきたいと考えています。



鈴木さんから苗の植え方を教わっている様子



さつまいもの苗植え



軽トラの荷台で休憩



休憩中に鈴木さんと談笑



効率のいい雑草の刈り方のアドバイス



畑でお昼ご飯を食べている様子

2 「八手庭みらい会議」に向けて

八手庭地区に住む住民の方と森ゼミが「10年後の八手庭地区がどのようなになってほしいか」「地域の現状と生活課題」の2つをテーマに、八手庭みらい会議を開催します。

この会議を開催する背景として、現在八手庭地区では、人口減少と高齢化が同時進行しています。そのため、高齢の単身世帯の生活課題等の、様々な行政サービスでは解決できない問題の発生が予想されます。そのような中で、地区単位での見守りや支え合うことが出来る地域の支え合いづくりが必要な状況になっています。

第1回八手庭みらい会議の準備会議が8月8日に開催されました。この会議では、八手庭地区の区長さん、副区長さん、前区長さん、婦人部の方々、斎藤さん、鈴木さんと森ゼミが参加しました。会議の内容としては、森ゼミとして八手庭地区で行っている活動内容紹介と八手庭地区の歴史や現状について話し合いました。その際に、八手庭地区では、以前盆踊りやサロンなど人が集まる行事が行われていたそうです。しかし、人口減少や新型コロナウイルスの影響で集まる人が少なくなり、それによって住民同士が顔を合わせる機会が少なくなっているという課題が挙げられました。また、中山間地域で生活をする人の移動には車が大切です。しかし、高齢化により免許返納や体力の低下によって買い物や通院へ行くための移動手段が限られるなどの課題が挙げられました。

その後第2回八手庭みらい会議準備会が9月11日に開催されました。八手庭みらい会議開催に向け、学生数名が八手庭地区にある64軒を訪問しました。この訪問では、八手庭みらい会議の案内をしました。この会議には、9名の住民の方と森ゼミが参加しました。前回同様に森ゼミに所属する学生が八手庭地区で行っている活動やおひさま村農園での農業体験についての紹介をした後、この会議の目的や取り組み案などを説明しました。住民の多くの方が大学生の八手庭地区での活動に対して、期待して下さっているため、住民の方の協力を得ながら共に活動していきたいと考えております。

会議終了後に住民の方にインタビューしてみると、「八手庭地区に住む若い人が少ないため、大学生のアイデアや物事に対する見方や考え方を知りたい」や「住民同士の関わりが少なくなっていることもあり、大学生との活動を通して地域住民同士の交流もしていきたい」といった意見や感想を聞くことが出来ました。

次回以降の八手庭みらい会議は、ワークショップ形式で5年後10年後の八手庭地区がどうなっていたら良いかを話し合い、八手庭地区の数年後のビジョンづくりを行っていく予定です。

今後の八手庭みらい会議を通して、住民の方のお話や大学生自身の目で見て発見した課題に対する解決策を大学生の視点や考え方で提案していきたいです。また、住民の方と大学生が連携して活動していくという貴重な機会を大切にしながら今後も活動していきたいと考えております。



インタビューしている様子



住民の方が意見を発表している写真



学生が活動を報告している写真



学生が会議の準備をしている様子

3 地域の拠点づくり！古民家 人集う場所へ

山元町の八手庭地区にある歴史ある古民家を訪れるフィールドワークを行いました。

そこでは八手庭の伝統や自然の魅力に触れる貴重な体験をすることができました。

フィールドワークを行った齋藤さんの古民家には、築200年ならではの歴史ある蔵や昔ながらの五右衛門風呂、井戸といった設備が比較的綺麗な状態で残されており、非日常的で心惹かれる空間であると感じました。

また、正面の庭には松やもみじが植えてあり、特に秋のもみじが美しいと齋藤さんから教えていただきました。船松や紅葉は樹齢400年近いそうで驚きです。

学生からはこの古民家を地域と外部の人々が交流できる拠点として活用するこ



古民家での顔合わせ



古民家正面で集合写真

とで、関係人口の創出につながるのではないかとその声が上がりました。

具体的には紅葉の季節には撮影スポットとして使用したり、味噌作り体験や焼き芋作りのイベントを開催したりすることで、地域の自然や歴史、文化に触れながら楽しめる場となるのではないかと。また、農家さんと協力し、収穫体験や地元産食材を使ったワークショップなども行えば、地域の魅力がより深く伝わる機会を提供できるかもしれない。このような想像が膨らむ素敵な場所でした。

今回のフィールドワークを通じて、地域の豊かな自然とこれまでの歴史が、地元の方々により維持されていることに気付かされました。今後、この古民家が地域と外部をつなぐ大切な拠点として、訪れる人々と地域との新たな関係を生み出す場となるよう尽力していきたいです。



古民家について説明している齋藤さんの写真



古民家の縁側でお昼ご飯を食べる学生



齋藤さん、鈴木さんとの打ち合わせの写真

現地コメント

「若い力で明るい未来を」

東北福祉大学森ゼミの皆さんには、昨年から同年代（大学生）に向けて農業の魅力の発信や、地域のイベント等でボランティアとしてお手伝い頂きました。

今年度も引き続き一緒に活動させて頂いています。特に高齢化・過疎化が進み、様々な課題を抱える八手庭地区で、これから先・みらいに向けて何ができるか。地域の声を聴きながら、学生がともに考えていく活動を進めてくれています。地域の方々も若者と触れ合うことを楽しみにしています。

後半の活動では、地区住民と学生が古民家を会場にサロン（談話や飲食、遊びの場所）などができるといいですね。

学生の新しい発想と笑顔で、地域住民が10年先・20年先の明るい未来を思い描けるようになることを期待しています。

鈴木 仁一

『大学生がつなぐ八手庭の未来』

今の八手庭地区は「高齢化」「人口減少」「農業後継者」「耕作放棄地」などの問題に直面しております。問題意識があっても当事者では行動が難しく進まないのが現状です。そんな中、東北福祉大学の森ゼミの皆さんが活動して頂ける事になり活性化に期待が持て、感謝しております。「八手庭みらい会議」を通してゼミ生の皆さんも地域住民とコミュニケーション活動をして頂いていますが、今後はイベントや農業体験など対面式の活動を期待しています。まずはゼミ生が楽しく活動する事が住民との距離を縮めていき現状の変化を呼び込む事に繋がると思います。これからも宜しくお願いします。

齋藤 周

森先生よりごあいさつ

今年度は、古民家を現地フィールドワークのベース基地に地域づくりの拠点とすべく検討を重ねてきました。楽しい農業づくりでは、さつまいもやイチジクを種まきから収穫まで経験し、その楽しさと難しさ、奥深さを知るところになりました。その過程は、YouTubeの動画やinstagramで情報発信し、多くの方に大学生が農業に取り組む様子を発信することにも力を入れています。中山間地域の農業や地域を維持することには様々な課題がありますが、地域に関わる多くの方に、この活動を知ってもらい、中山間地域の魅力を発見してもらうことで、更なる興味を持って頂く契機となれば幸いです。引き続き、本プロジェクトへのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

朴田 有希奈（ゼミ1年生）

私は、鈴木さんの「人の幸せとは、人との出会いによって生まれる」という言葉が印象に残りました。この活動を通して、八手庭に住む方々がより日常生活を生き生きと幸せを感じられるようにしていきたいと思っています。

また課題としては、地域に高齢者が多いことで、どうしても会議の場に来ることが難しい人の生活課題を聞き出すことが地域づくりを行う上で課題だと感じました。

佐藤 崇（ゼミ1年生）

今回の活動を通して農業の良さ、そして課題について多くのことを学ぶことができました。

農作業の体験では、苦労したこともありましたが、作業後の達成感、収穫した際の嬉しさや感動が印象深く残っています。今回の活動で貴重な経験や学びを得ることができてとても良い経験になりました。

砂田 爽太（ゼミ1年生）

私自身は、家庭菜園などでも手伝いをしたことも無く、農業に対しては一切踏み入れたことがありませんでした。しかし、この森ゼミのプロジェクトを通して、農業の大変さを学ぶと共にそこから農業の楽しさを学ぶことが出来ました。実際に植え付けから収穫までの全体を通して農業の楽しさを知ることが出来ました。

鈴木 優（ゼミ1年生）

私はこれまで山元町には行ったことがなく農業も経験したことがなかったのですが、山元町で見たもの、行ったことすべてが新鮮でした。また活動の回数が増えるにつれ現地の方々との距離が縮まり、新たな人たちとの出会いもたくさんありました。農業や自然だけではなく人の温かさを感じられるのが山元町だと思いました。

編集後記



Instagram



YouTube